

目的 日常の生活行動には、様々な周期性が存在することが認められている。筆者は、かつて、起床、就寝、食事の開始時刻の季節的変動に着目し、その変動パターンをみることにより、1年間をサイクルとする周期性の有無について考察した（日本家政学会 第37回年次大会において報告）。そこで、本報告では、1日の生活行動を、行動項目、場所（室）、一緒にいた人について、四季にわたって直接観察し、その変動パターンを明らかにすることを試みた。

方法 O県K市在住で、大学または短大に通学する子女をもつ40代の主婦10名を対象として、1986年5月、8月、11月、1987年2月の休日（第2または第3日曜日）、それぞれ、1日の生活行動を直接観察し、行動項目、行動した場所（室）、一緒にいた人について、分単位で記録した。行動項目の変化の回数、室間の移動回数も同時に記録した。

結果 起床時刻は徐々に遅く（または早く）なる人が6名あり、このうち5名は家事労働時間も徐々に短く（または長く）なり、さらにこのうち4名は社会的文化的な生活時間も徐々に長く（または短く）なっていた。就寝時刻では9名が徐々に変化しており、7名は2月が最も早い。起床在宅時間の四季にわたる変動パターンをみると、家事労働時間の変動パターンと類似している人が3名あった。室間の移動回数では5名が徐々に変化していた。また、行動の開始時刻、室間の移動経路、一緒にいた人についても、その変動パターンに、他の項目の変動パターンとの類似性が認められた。